

第15回地方公務員共済資金運用委員会議事要旨

1. 日 時：平成29年1月30日（月） 10:00～11:20
2. 場 所：地方公務員共済組合連合会 特別会議室
3. 出席した委員：
 - ・若杉座長 ・川北委員 ・喜多委員 ・高山委員 ・竹原委員
 - ・徳島委員 ・俊野委員 ・蜂須賀委員 ・森本委員
4. 議 事
 - (1) 平成28年度第2四半期運用状況
 - (2) 平成28年度第2四半期運用リスク管理状況
 - (3) 地方公務員共済組合連合会のスチュワードシップ活動の状況
 - (4) 経過的長期給付積立金の基本ポートフォリオについて

〈議事の概要〉

- ・事務局から上記議題について資料の説明が行われた。
 - ・その後、意見交換が行われた。
- (3) 地方公務員共済組合連合会のスチュワードシップ活動の状況
- 運用機関のインセンティブとスチュワードシップ活動の目的が一致しないと、長続きしない。運用機関の立場に立ってのインセンティブを考える必要がある。社会的な観点から行うエンゲージメントについては、別の形のインセンティブが必要ではないか。
 - 運用機関側だけでなく、企業経営者の側とも、パイプを持つことで、モニタリングの効果がより分かり易くなるのではないか。
 - TOPIXの場合は2,000社もあり、どういうエンゲージメントをやっているのか分からない状況の中では少し多過ぎる。公的年金側でもっと適切なベンチマークを作るように働きかけていただければ、パッシブに対するエンゲージメントや議決権行使が効力を発揮するのではないか。

- GPIF や他の大手公的年金については、スチュワードシップ・コードやガバナンスに関しての要求やモニターの状況の共通の要素が多い。連携から一歩進んで、ガバナンス、あるいはスチュワードシップに関する開示制度について共通の様式といったものを提案することはできないか。
 - 企業の経営者は、「E」と「S」については、レスポンスがいいが、業績に対するプレッシャーになるガバナンスには乗り気になれないようだ。E、S、G、を単純に並べて言うと、そういう反応になってしまう。
- (4) 経過的長期給付積立金の基本ポートフォリオについて
- 絶対リターン型の収益追求ではなく、異なる収益の源泉として、1・2階と同様、オルタナティブ投資を旧3階でも採用することについて検討していくべきなのではないか。

以上